

新倉保（寄生虫学、原生生物学）、平 健介（寄生虫学）、
小山雄一（病理学）、小野澤 裕也（生理学）

研究の背景

真核生物の多様性は原生生物が担っています。そのため、原生生物の生き方は、光合成をするものや捕食するもの、寄生するものなど多種多様です。さらに、培養系が確立されていないため未発見の原生生物も数多く存在すると考えられています。

アプローチ

様々な環境中から原生生物を採取して種の同定を行いつつ、原生生物の新たな培養法や凍結保存法の樹立に挑みます。



環境中（池や沼、動物）からサンプリング ⇨ 季節性の変化などの解析



どのような原生生物が存在するかを
顕微鏡で観察



培養（培養条件の検討）・株化 ← 生活環の解析



培地、温度、CO₂濃度などの検討
保存方法の検討

DNA抽出、配列解析 ⇨ 形態解析（電子顕微鏡など）

期待される結果

- ・研究を進める過程で分子生物学関連の基本的な手法や、培養技術などを身に付けることができます。
- ・未知の原生生物に出会える可能性があります。
- ・真核生物の進化の謎を解き明かすカギとなる現象を見出せる可能性があります。

募集方法

- ・募集人数：2名程度
- ・選抜方法：学業成績及び教員との面談
- ・連絡方法：g-mail（m-niikura@azabu-u.ac.jp）
- ・その他：失敗を糧にして新たな挑戦を続けられる学生さんが望ましい。